

2016年度（平成28年度）
事業計画書



学校法人

和泉短期大学

2016.3.18

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	16
4. キリスト教活動	19
5. 研 究 活 動	21
6. 委 員 会 活 動	35
7. 広 報 活 動	43
8. 施設・設備・経費	46
9. 財政の概要	49

和泉短期大学の沿革

1956 年 5 月 (昭和 31 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960 年 5 月 (昭和 35 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964 年 6 月 (昭和 39 年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965 年 4 月 (昭和 40 年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員 40 名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966 年 3 月 (昭和 41 年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971 年 11 月 (昭和 46 年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976 年 4 月 (昭和 51 年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4 月	学生入学 定員 250 名 に変更認可された。
8 月	全学神奈川県相模原市の 新校舎に移転 した。
1978 年 2 月 (昭和 53 年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981 年 2 月 (昭和 56 年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7 月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985 年 4 月 (昭和 60 年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員 80 名)
1986 年 6 月 (昭和 61 年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988 年 3 月 (昭和 63 年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。(定員 100 名)
4 月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990 年 4 月 (平成 2 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状 取得の課程として認可された。
1991 年 3 月 (平成 3 年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。

1992 年 2 月 (平成 4 年)	保母養成課程が改訂 され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4 月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9 月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995 年 4 月 (平成 7 年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。
1996 年 4 月 (平成 8 年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。
1999 年 4 月 (平成 11 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000 年 4 月 (平成 12 年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001 年 4 月 (平成 13 年)	男女共学制度 を導入した。
2002 年 4 月 (平成 14 年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006 年 5 月 (平成 18 年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008 年 3 月 (平成 20 年)	(財) 短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6 月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10 月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010 年 3 月 (平成 22 年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4 月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20 名)
2013 年 4 月 (平成 25 年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014 年 4 月 (平成 26 年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015 年 3 月 (平成 27 年)	(財) 短期大学基準協会の 2 回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016 年 5 月 (平成 28 年)	法人創立 60 周年

設置学校 学校法人和泉短期大学

理事長 深町 正信 (ふかまち まさのぶ)

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名

入学定員

収容定員

児 童 福 祉 学 科 (2 年制)

250 名

500 名

専攻科介護福祉専攻 (1 年制)

20 名

20 名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016 年 2 月 24 日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を实践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」（聖書：マタイによる福音書第 5 章 16 節）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

2015 年 10 月 28 日教授会改訂

本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づく教育課程表科目群の 1 群（教養）、2 群（原理）、3 群（知識・技能）4 群（実践）のカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士（児童福祉学）の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
2. 保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。
3. 保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2015 年 7 月 22 日教授会改訂

CP I：教養

「キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を再構築する」

CP II：原理

「多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養う」

CP III：知識・技能

「子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける」

CP IV：実践

「学んだ価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積みながらキャリア形成の基礎を培う」

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2016 年 1 月 27 日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な専門的知識・技能・価値を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に求める学習経験：児童福祉学科】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、保育・福祉の学びの基盤となります。児童福祉学科入学希望者には、高等学校卒業までに下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に求める学習経験：専攻科介護福祉専攻】

保育士養成課程での学びを基盤に、主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学ぶ専攻科では、保育士養成課程での学びのなかで、下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

学校法人和泉短期大学基本構想

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】
 スクールモットー 【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第5章16節】

－2016年度－

法人創立 60 周年
記念事業

1 号館外壁・鉄部塗装
改修工事

学生・教職員安否
確認システム導入

時間割改正に伴う
教育環境の整備

大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		大学の 財政赤字	大学の離学者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大 学	短期大学			
1992 年 205 万人 2015 年 120 万人 2016 年 119 万人	24.6% 51.5%	11.7% 5.1%	2014 年度 大学 37.0% 短大 56.2%	2013 年度末 80,000 人 2.65% (経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等) 非正規雇用の増加	専門学校への 進学者増加 2015 年度 22.4%

今年度の目標と課題

60 周年記念事業 ・記念式典・祝賀会 ・記念講演会 ・記念コンサート ・児童福祉研究所設置	5. 教育・研究の高度化 ・「課題解決・提案型授業」への重点的な「取り組み」 ・学長のリーダーシップのもとに更なる教育・研究の高度化を図り、教育・研究の成果を上げる。
2. キャンパスの整備計画と教育環境の充実 相模原市に移転して 40 年となり、1 号館、2 号館の修繕工事を計画的に丁寧に行い、新校舎建設計画を将来構想と併せて検討していく。	6. 職員のスキルの向上と専門的職員の配置 ・中央教育審議会大学教育部会「大学職員の位置と力の飛躍」で提言された通り、大学職員の資質能力向上に向け、SD研修の推進に取り組む。 ・大学運営の高度化を図るために、専門的業務を担う体制の整備を検討する。
保育・福祉の学びを深めるために4年制大学への編入を希望する学生にののために、推薦制度の充実を検討する。	7. 相模原市及び市内大学との連携強化 地域連携推進委員会を中心に2014年度に締結した相模原市と市内大学との包括協定の一層の連携の強化を図る。
4. 奨学金制度の充実 経済的困難による離学者を出さないようにするために法人と大学が協力して一人でも多くの学生に奨学金を支援できるように工夫する。	8. ガバナンス・コンプライアンスの一層強化・教職員の人事考課制度の検討 法人役員である理事・監事そして評議員の指導のもとに教職員が一体となり、建学の精神とスクールモットーを堅持し、ガバナンスとコンプライアンスを大事にし、経営と教学の一体化を図り、事業展開していく。

1.学校法人和泉短期大学

「2016年度事業計画」

理事長 深 町 正 信

今年度（2016年）は学校法人和泉短期大学が設立されて60周年の記念の年であります。最初の学校は東京都世田谷区中町の地にキリスト教児童養護施設で働く職員の養成のための学校として開校されました。やがて、入学者が毎年度増加したため、現在の神奈川県相模原市に校地を求め、新たに定員一学年250名の和泉短期大学を開校したのでした。以来、和泉短期大学は現在地にあり「地元密着型」の短期大学として、数多くの良き保育者、介護福祉士を養成し社会に送り出してきました。今年度は「60周年記念事業委員会」を発足させ、記念講演会、記念誌の作成、記念式典、祝会の準備にあたることにしました。

卒業生の数は現在までに18,411人です。彼らはそれぞれの施設で良き保育者、介護福祉士として活躍してきました。その人材の育成、教育の根底には建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と、スクール・モットーの「愛と奉仕」による人格の形成がありますが、これこそは和泉短期大学の人間形成のバックボーンとなっているものであります。

和泉短期大学のカリキュラムは保育者、介護福祉士の養成を目指していますが、この実現のためには、実力のある良い教員、職員を一人でも多く必要としています。幸いにも、昨今の教員、職員の働きを見ていると、和泉短期大学の将来に対して、大いに希望が持て、その前途に明るい未来を感じます。本学の教育、研究の現状は昨年度、一般財団法人短期大学基準協会により実施された「第三者評価」の審査で「適格」とされたことによっても証明され、今年度も教員と職員の一層のスキルの向上をはかり、なお一層の教育の充実の成果を期待したい。

特に、文部科学省が示した「課題解決策、提案型授業」は本学としても、学長のもとで、重点的に取り組んでいます。更に、「大学職員の位置と力の飛躍」という中央教育審議会大学教育部会の議論も重く受け止めて、教員とともに職員のスキルの一層の向上と専門的職員の配置を学長のリーダーシップのもと更なる教育、研究の高度化をはかり、良い教育、研究の成果をあげ、努力していくことに大いに期待したい。

2015年度末に定年を迎えた武石宣子先生には特任教授としてご指導をお続け頂き、また、新たにチャプレン、その他、新しい先生方を迎えて、当然のことながら教育の内容の充実に努めることとしたい。

卒業生が各地で活躍されていることはまことに心強いことであり、また、今後、より専門的学びを

深めるために4年制大学で学びたいという希望者のため、推薦制度を交渉している。更に、相模原市内にある「大学と相模原市との包括連携協定」(青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、女子美術大学、和泉短期大学)を相模原市長の立ち会いのもと締結するとともに、和泉短期大学はすでに地域における共同研究と協力事業を北里大学、相模女子大学と実施しているが、地域の方々の評価が高いので今年度も続けてゆきたい。

キャンパスの将来計画については、まず第2号基本金として将来計画の実現のための資金を蓄えているが、和泉短期大学の校地の一部を貸して、和泉保育園の新園舎が完成したため、キャンパス整備計画の実現を一気に計りたいと願う。

和泉短期大学が当面している課題は決して少なくないが、教育の内容を一層深め、保育者となるべき学生の学びの内容を深め、少しでも、良き働き人を育てるために、キャンパスの教育環境を一層整備してゆくこととしたい。

本法人の財務の状況は帰属収入の90%を学生からの学納金によっている。しかし、昨今は入学してくる学生の中に金融機関からローンを組んで入学して来る学生も決して少なくないのが現状である。その結果、学生の中には毎日、アルバイトに追われ、大学に不満があるという訳ではないのに、経済的理由から、中途退学する離学者が決して少なくないのが現実である。法人としても、大学と協力して、一人でも多くの学生に少しでも奨学金を出せるように工夫したいと検討している。

現在の校舎は、現時点で大きな補修をしなくてもよいと診断されているが、近い将来、本格的に、抜本的に、新校舎の建設に着手することになると思われる。しかし、それまでは補修工事を計画的に丁寧に行いながら、現在の校舎をもちこたえさえたいと願う。

結びに、学校法人の役員である理事、評議員、監事の方々のご指導のもと、建学の精神であるキリスト教の信仰に立ち、スクール・モットーの「愛と奉仕」による人格の形成を堅持しつつ、ガバナンス(統治)とコンプライアンス(規則の順守)を大事にして、経営と教学の混乱が起らないように注意しつつ、和泉短期大学の今年度の事業展開を考えて、慎重に実施してゆきたいと願っている。

法人事業計画

○理 事 会

2016 年	5 月	21 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2016 年	6 月	4 日 (土)	理事会 (新理事・新監事)	於：和泉短期大学
2016 年	10 月	28 日 (金)	理事会 (予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2017 年	1 月	28 日 (土)	理事会	於：和泉短期大学
2017 年	3 月	24 日 (金)	理事会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2016 年	5 月	21 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2016 年	6 月	4 日 (土)	評議員会 (新評議員・新監事)	於：和泉短期大学
2016 年	10 月	28 日 (金)	評議員会 (予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2017 年	3 月	24 日 (金)	評議員会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

▶ 出席者：理事長、学長、チャプレン、副学長（教務部長）、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2016 年	4 月	6 日 (水)	4 月	13 日 (水)	4 月	20 日 (水)	4 月	27 日 (水)
	5 月	11 日 (水)	5 月	18 日 (水)	5 月	25 日 (水)	6 月	1 日 (水)
	6 月	8 日 (水)	6 月	15 日 (水)	6 月	22 日 (水)	6 月	29 日 (水)
	7 月	6 日 (水)	7 月	13 日 (水)	7 月	20 日 (水)	7 月	27 日 (水)
	9 月	7 日 (水)	9 月	14 日 (水)	9 月	21 日 (水)	9 月	28 日 (水)
	10 月	5 日 (水)	10 月	12 日 (水)	10 月	19 日 (水)	10 月	26 日 (水)
	11 月	2 日 (水)	11 月	9 日 (水)	11 月	16 日 (水)	11 月	30 日 (水)
	12 月	7 日 (水)	12 月	14 日 (水)	12 月	21 日 (水)		
2017 年	1 月	11 日 (水)	1 月	18 日 (水)	1 月	25 日 (水)	2 月	1 日 (水)
	2 月	8 日 (水)	2 月	15 日 (水)	2 月	22 日 (水)	3 月	1 日 (水)
	3 月	8 日 (水)	3 月	15 日 (水)	3 月	22 日 (水)	3 月	29 日 (水)

○法人行事

2016 年	4 月	11 日 (月)	イースター特別礼拝
	5 月	14 日 (土)	創立 60 周年記念式典、祝賀会
	5 月	16 日 (月)	創立 60 周年記念講演会
	11 月	7 日 (月)	召天者記念礼拝
	11 月	28 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	10 日 (土)	クリスマス・コンサート
2017 年	1 月	6 日 (金)	新年礼拝

2.和泉短期大学

「2016年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

本学は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神し、「愛と奉仕」をスクールモットーに掲げ、福祉・保育の専門職の養成にあたってきました。これから先も神様の御心にかない、ますます意義深い大学として発展しますよう願っています。

ところで、学校法人和泉短期大学は今年度、創立60周年を迎えます。皆さんと共に創立60周年をお祝いしたいと思います。

さて、今年度も、大学を取り巻く状況は好転する見込みは少なく、少子化（2016年度の18歳人口119万人）に伴う大学の定員充足率の低下と経済の悪化等による離学者（年間8万人2.65%）の増加が見込まれます。本学は、これらの状況を調査・分析し、キリスト教信仰に基づく「教育の質の保証」、並びに、「学生支援の強化」を一層進めてまいりたいと思います。

1) 創立60周年記念事業

- ①記念式典・祝賀会（5月14日）
- ②講演会（5月16日）
- ③コンサート
- ④児童福祉研究所（仮称：ミルス研究所）
- ⑤保育士養成協議会 関東ブロック協議会
学生研究発表会開催（於 和泉短期大学）（2月末）

2) 学内のガバナンス及びコンプライアンスの強化

- ・委員会組織の位置づけ等

3) 教育・研究活動の強化

- ①FD&SD（ファカルティ&スタッフ）の強化
- ②「授業に対する授業評価」の改善

4) 外部資金の調達の推進

5) 学生生活の向上にむけての支援

- ①ラーニングセンターwillの運営
- ②給付奨学制度の充実
- ③退学、除籍、休学、留年学生の状況改善
- ④四年制大学への推薦制度

6) 卒業生の保育就業力向上への取り組み

- ①幼稚園教諭免許状のみを有する者に保育士取得特例講座を開催
- ②リカレント教育の充実

7) 相模原市及び市内大学との連携強化

8) 和泉短期大学父母会・同窓会いずみ・後援会との連携強化

- ・創立60周年事業への協力

(1) 学事予定

2016 年	3 月	31 日 (木)	2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング
	4 月	1 日 (金)	入学式、全教員打合せ会
		4 日 (月)	1 年、専攻科前期オリエンテーション①、新入生研修会 2 年、専攻科健康診断、2 年教科書販売
		5 日 (火)	1 年、2 年新入生歓迎大会 専攻科前期オリエンテーション②、教科書販売
		6 日 (水)	1 年前期オリエンテーション②、2 年、専攻科前期授業開始
		7 日 (木)	1 年健康診断、教科書販売
		8 日 (金)	1 年前期授業開始
		11 日 (月)	イースター特別礼拝
	5 月	14 日 (土)	創立 60 周年記念式典、祝賀会
		16 日 (月)	創立 60 周年記念講演会
		18 日 (水)	実習連絡会 (幼稚園)
		25 日 (水)	高校教員対象進学説明会①
		26 日 (木)	高校教員対象進学説明会②
	6 月	2 日 (木)	かながわ高齢者福祉研究大会
		8 日 (水)	市内高校保育・福祉担当教員研究会
		20 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園) 〈7 月 8 日 (金) まで〉 専攻科介護実習Ⅰ 〈6 月 27 日 (月) まで〉 1 年避難・防災訓練、感謝の祈り
	7 月	25 日 (月)	前期終了感謝礼拝
		29 日 (金)	1 年、専攻科前期授業終了
		30 日 (土)	専攻科前期定期試験①
	8 月	1 日 (月)	1 年前期定期試験① 専攻科介護実習Ⅰ (訪問介護) 〈8 月 10 日 (水) まで〉
		2 日 (火)	1 年夏期休業開始 〈9 月 1 日 (木) まで〉
		3 日 (水)	2 年夏期休業開始 〈8 月 28 日 (日) まで〉
		4 日 (木)	iA0 入試Ⅰ期 1 回目
		5 日 (金)	iA0 入試Ⅰ期 2 回目
		11 日 (木)	専攻科夏期休業開始 〈9 月 1 日 (木) まで〉
		19 日 (金)	1 年、専攻科成績報告書締切日
		23 日 (火)	iA0 入試Ⅱ期 1 回目 インターナショナル・フィールドワーク海外実習 〈8 月 27 日 (土) まで〉
		25 日 (木)	iA0 入試Ⅱ期 2 回目 おもちゃインストラクター養成講座 1 回目 〈2 回目 26 日 (金)〉
		28 日 (日)	2 年夏期休業終了
	8 月	29 日 (月)	2 年前期授業再開
	9 月	1 日 (木)	1 年、専攻科夏期休業終了

9月	2日(金)	1年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、教科書販売、再試験発表
	5日(月)	専攻科後期授業開始
	7日(水)	1年、専攻科前期再試験〈8日(木)まで〉
	9日(金)	2年前期授業終了
	10日(土)	2年前期定期試験①
	12日(月)	1年後期授業開始 2年現場実習(保育所・児童福祉施設)〈9月29日(木)まで〉
	14日(水)	市内高校長との教育研究会
	23日(金)	2年成績(教育実習含む)報告書締切日
	24日(土)	iA0入試Ⅲ期1回目
	30日(金)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、教科書販売
10月	1日(土)	iA0入試Ⅲ期2回目
	3日(月)	2年後期授業開始
	5日(水)	専攻科実習連絡会
	19日(水)	2016年度第1回サンクスギビングフェア
	24日(月)	専攻科入試ⅰ日程
	28日(金)	学生祭週間〈31日(月)まで〉
	29日(土)	いずみ祭、個別相談会①、②〈30日(日)まで〉
11月	7日(月)	召天者記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ〈12月6日(火)まで〉
	12日(土)	入学者選考日[指定校、卒業生・在学生家族、キリスト者推薦]
	16日(水)	実習連絡会(保育所)
	19日(土)	公募・専門高校推薦入試、専攻科A日程入試
	21日(月)	専攻科帰校日
	28日(月)	クリスマスツリー点火祭
12月	9日(金)	専攻科B日程入試
	10日(土)	iA0入試Ⅳ期(12月)
	14日(水)	実習連絡会(児童養護施設)、2016年度第2回クリスマスフェア
	19日(月)	クリスマス礼拝
	24日(土)	冬期休業開始〈2017年1月9日(月)まで〉
2017年	1月	
	6日(金)	新年礼拝
	9日(月)	冬期休業終了
	10日(火)	後期授業再開
	11日(水)	2016年度第3回グラデュエーションフェア
	13日(金)	1年後期授業終了
	14日(土)	1年後期定期試験①
	16日(月)	1年現場実習(保育所)〈1月31日(火)まで〉

1 月	21 日 (土)	iAO 入試Ⅳ期(1 月)、社会人特別選抜入試、専攻科 C 日程入試
	24 日 (火)	1 年成績報告書締切日
	30 日 (月)	2 年、専攻科後期終了感謝礼拝
2 月	2 日 (木)	1 年後期再試験発表
	3 日 (金)	2 年、専攻科後期授業終了
	6 日 (月)	2 年後期定期試験①、専攻科後期定期試験①
	7 日 (火)	一般入試
	8 日 (水)	2 年追・再実習追加分 (幼稚園) 〈10 日 (金) まで〉
	13 日 (月)	1 年保育実習 (児童福祉施設) 〈2 月 28 日 (火) まで〉 2 年追再実習 〈2 月 28 日 (火) まで〉 iAO 入試Ⅳ期(2 月)
	14 日 (火)	2 年、専攻科成績報告書締切日
	15 日 (水)	専攻科卒業共通試験
	16 日 (木)	専攻科卒業試験講習会 〈17 日 (金) まで〉
	20 日 (月)	2 年、専攻科後期再試験発表、専攻科卒業共通試験再試験
	24 日 (金)	2 年、専攻科後期再試験
	27 日 (月)	iAO 入試Ⅳ期(3 月)、専攻科 D 日程入試
3 月	1 日 (水)	2 年追再実習者再試験
	2 日 (木)	1 年後期再試験 〈3 日 (金) まで〉
	10 日 (金)	専攻科 E 日程入試
	13 日 (月)	2 年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝・修了証書授与式予行練習
	14 日 (火)	2 年卒業証書・学位記授与式 専攻科修了証書授与式
	29 日 (水)	おもちゃインストラクター養成講座 〈30 日 (木) まで〉
	31 日 (金)	新 2 年前期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング

(2) 実習

2016 年	6 月	20 日 (月)	～7 月 8 日 (金)	2 年幼稚園
	6 月	20 日 (月)	～6 月 27 日 (月)	専攻科介護実習 I
	8 月	1 日 (月)	～8 月 10 日 (水)	専攻科介護実習 I (訪問介護)
	9 月	12 日 (月)	～9 月 29 日 (木)	2 年保育所・児童福祉施設
	11 月	7 日 (月)	～12 月 6 日 (火)	専攻科介護実習 II
2017 年	1 月	16 日 (月)	～ 1 月 31 日 (火)	1 年保育所
	2 月	8 日 (火)	～ 2 月 10 日 (金)	2 年追再実習追加分 (幼稚園)
		13 日 (月)	～ 2 月 28 日 (火)	1 年児童福祉施設、2 年追再実習

(3) 2017 年度 児童福祉学科入試日程

2017 年度 児童福祉学科 入試日程

IA0 入試Ⅰ期

2016 年 7 月 20 日(水)～7 月 30 日(土)16 時 11 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目試験申込期間
2016 年 8 月 4 日(木) 午前・午後	1 回目試験
2016 年 8 月 5 日(金) 午前・午後	2 回目試験
2016 年 8 月 10 日(水)	出願許可通知発送日
2016 年 8 月 12 日(金)～8 月 25 日(木) 14 日間	出願手続期間
2016 年 9 月 1 日(木)	合格通知発送日
2016 年 9 月 2 日(金)～9 月 12 日(月) 11 日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅱ期

2016 年 8 月 8 日(月)～8 月 18 日(木)16 時 11 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目試験申込期間
2016 年 8 月 23 日(火) 午前・午後	1 回目試験
2016 年 8 月 25 日(木) 午前・午後	2 回目試験
2016 年 8 月 31 日(水)	出願許可通知発送日
2016 年 9 月 2 日(金)～9 月 20 日(火) 19 日間	出願手続期間
2016 年 9 月 29 日(木)	合格通知発送日
2016 年 9 月 30 日(金)～10 月 12 日(水) 13 日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅲ期

2016 年 8 月 26 日(金)～9 月 17 日(土)16 時 23 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目試験申込期間
2016 年 9 月 24 日(土) 午前・午後	1 回目試験
2016 年 8 月 26 日(金)～9 月 24 日(土)16 時 30 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2 回目試験申込期間
2016 年 10 月 1 日(土) 午前・午後	2 回目試験
2016 年 10 月 5 日(水)	出願許可通知発送日
2016 年 10 月 6 日(木)～10 月 17 日(月) 12 日間	出願手続期間
2016 年 10 月 27 日(木)	合格通知発送日
2016 年 10 月 28 日(金)～11 月 7 日(月) 11 日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅳ期(12月)

2016年11月9日(水)～12月3日(土)16時 25日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2016年12月10日(土) 午前	試 験
2016年12月13日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2016年12月14日(水)～1月13日(金) 31日間	出 願 手 続 期 間
2017年1月26日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2017年1月27日(金)～2月6日(月) 11日間	入 学 手 続 期 間

iA0 入試Ⅳ期(1月)

2017年1月6日(金)～1月16日(月)16時 11日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2017年1月21日(土) 午前	試 験
2017年1月26日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2017年1月27日(金)～2月10日(金) 15日間	出 願 手 続 期 間
2017年2月23日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2017年2月24日(金)～3月6日(月) 11日間	入 学 手 続 期 間

A0 入試Ⅳ期(2月)

2017年1月30日(月)～2月6日(月)16時 8日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2017年2月13日(月) 午前	試 験
2017年2月14日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2017年2月15日(水)～2月22日(水) 8日間	出 願 手 続 期 間
2017年2月28日(火)	合 格 通 知 発 送 日
2017年3月1日(水)～3月6日(月) 6日間	入 学 手 続 期 間

iA0 入試Ⅳ期(3月)

2017年2月7日(火)～2月15日(水)16時 9日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2017年2月27日(月) 午前	試 験
2017年2月28日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2017年3月1日(水)～3月8日(水) 8日間	出 願 手 続 期 間
2017年3月16日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2017年3月17日(金)～3月22日(水) 6日間	入 学 手 続 期 間

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦

2016 年 11 月 1 日(火)～11 月 8 日(火)16 時 8 日間 郵送は 4 日(金)消印有効。窓口は 8 日(火)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 11 月 12 日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2016 年 11 月 13 日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 11 月 14 日(月)～11 月 25 日(金) 12 日間	入 学 手 続 期 間

公募推薦、専門高校推薦

2016 年 11 月 1 日(火)～11 月 11 日(金)16 時 11 日間 郵送は 9 日(水)消印有効。窓口は 11 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 11 月 19 日(土) 午前	入 学 選 考 日
2016 年 11 月 22 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 11 月 24 日(木)～12 月 5 日(月) 12 日間	入 学 手 続 期 間

社会人特別選抜

2017 年 1 月 6 日(金)～1 月 14 日(土)16 時 9 日間 郵送は 12 日(木)消印有効。窓口は 14 日(土)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2017 年 1 月 21 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2017 年 1 月 26 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2017 年 1 月 27 日(金)～2 月 8 日(水) 13 日間	入 学 手 続 期 間

一般入試

2017 年 1 月 12 日(木)～2 月 3 日(金)16 時 23 日間 郵送は 1 日(水)消印有効。窓口は 3 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2017 年 2 月 7 日(火) 午前	入 学 試 験 日
2017 年 2 月 8 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2017 年 2 月 9 日(木)～2 月 21 日(火) 13 日間	入 学 手 続 期 間

3. 専攻科介護福祉専攻

「2016年度事業計画」

1. 教育内容の充実を図る

(1) 教育の充実

- ① 専任教員担当科目の授業内容について、科目間の教授内容を明確にする
- ② 1科目毎にコマシラバスを作成し、学生に1コマで教授する内容を提示する
- ③ 学生と教員の連携を密に行うために、専攻科委員会以外でも臨時委員会を開催する
- ④ 2016年度生の医療的ケアの講義50時間、演習を充実する
- ⑤ 2017年度生の介護福祉士国家試験への対応の検討を始める

(2) 実習の充実

- ① 施設見学実習の実施
- ② 学生個々に応じた実習指導の充実
- ③ 実習巡回指導の充実
- ④ 事例研究の指導及び事例研究の発表
- ⑤ 事例集の作成
- ⑥ 実習連絡会の開催
- ⑦ 実習先などの高齢者・障がい施設へのボランティアの充実

2. 就業力支援をする

- (1) ポートフォリオへの取り組みと評価
- (2) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (3) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (4) 特別講義の実施

3. 専攻科入学者数の増加を図る

- (1) 専攻科学生による学内向けの宣伝（実習体験の様子を表現するなど）
- (2) 専攻科生の入学前教育を開催
 - ①事例発表会に参加 ②児童福祉学科の入学前教育に協力 ③入学前課題に取り組む
- (3) 入試広報委員会の協力を得て、指定校訪問

4. 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修に対して講師とし、介護職員のスキルアップ支援
- (2) 相模原市・市民大学への協力
- (3) 青葉2丁目の町内会と専攻科学生の連携

5. 卒業生への再教育支援の検討

2017 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程 (学内、卒業見込者対象)

2016 年 10 月 3 日(月)～10 月 17 日(月)16 時 15 日間 郵送は 14 日(金)消印有効。窓口は 17 日(月)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 10 月 24 日(月) 17 時 30 分	入 学 試 験 日
2016 年 10 月 27 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 10 月 28 日(金)～11 月 7 日(月) 11 日間	入 学 手 続 期 間

A 日程

2016 年 11 月 1 日(火)～11 月 11 日(金)16 時 11 日間 郵送は 9 日(水)消印有効。窓口は 11 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 11 月 19 日(土) 9 時 30 分	入 学 試 験 日
2016 年 11 月 22 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 11 月 24 日(木)～12 月 5 日(月) 12 日間	入 学 手 続 期 間

B 日程

2016 年 11 月 14 日(月)～12 月 2 日(金)16 時 19 日間 郵送は 30 日(水)消印有効。窓口は 2 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2016 年 12 月 9 日(金) 17 時 30 分	入 学 試 験 日
2016 年 12 月 13 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2016 年 12 月 14 日(水)～12 月 21 日(水) 8 日間	入 学 手 続 期 間

C 日程

2017 年 1 月 6 日(金)～1 月 14 日(土)16 時 9 日間 郵送は 12 日(木)消印有効。窓口は 14 日(土)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2017 年 1 月 21 日(土) 9 時 30 分	入 学 試 験 日
2017 年 1 月 26 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2017 年 1 月 27 日(金)～2 月 8 日(水) 13 日間	入 学 手 続 期 間

D 日程

2017 年 2 月 9 日(木)～2 月 20 日(月)16 時 12 日間 郵送は 17 日(金)消印有効。窓口は 20 日(月)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2017 年 2 月 27 日(月)	入 学 試 験 日
2017 年 2 月 28 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2017 年 3 月 1 日(水)～3 月 8 日(水) 8 日間	入 学 手 続 期 間

E 日程

2017 年 2 月 21 日 (火)～3 月 3 日 (金)16 時 11 日間 郵送は 1 日 (水)消印有効。窓口は 3 日 (金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2017 年 3 月 10 日 (金)	入 学 試 験 日
2017 年 3 月 16 日 (木)	合 否 通 知 発 送 日
2017 年 3 月 17 日 (金)～3 月 24 日 (金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。2016 年度委員会メンバーは、チャプレン西田恵一郎、伊藤忠彦、片山知子、山本正司、深町和哉、今泉治子、芹澤薫

3. 活動内容

3-1 年度聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年度聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2016 年度は「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（マタイによる福音書 第 7 章 12 節）とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるよう礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神に基づく「愛と奉仕」について礼拝を通し理解を深める。聖書のみ言葉を聴き、説教や奨励を通したメッセージにふれ、賛美と感謝を捧げて祈る礼拝を、毎週月曜日にチャペルアワーとして計画し実施する。始業礼拝、卒業・修了感謝礼拝を除き、年間 30 回のチャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 11 日）
- 2) 創立 60 周年記念講演会（5 月 16 日）
- 3) ペンテコステ礼拝（5 月 23 日）
- 4) 召天者記念礼拝（11 月 7 日）
- 5) クリスマスツリー点火祭（11 月 28 日）
- 6) クリスマス礼拝（12 月 19 日）（キャリアデザイン I）
- 7) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 13 日）

3-5 新入生研修会

4 月 4 日に新入生研修会を実施する。宗教部オリエンテーションと礼拝、講演を通して、今後の学びの礎を培う。（講師：井上とも子氏）

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12 月 10 日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び児童福祉施設等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F.)

聖書に親しむことを通して学生同士および教員との交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美の奉仕を行う。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での演奏の奉仕、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 「教えとともにⅡ」(チャペルメッセージ集)作成

2014年度に作成した「教えとともに」(チャペルメッセージ集Ⅰ)の続編作成に向け、2014年度後期以降のチャペルアワーでの説教・奨励について、原稿を依頼・収集し、2017年新入生4月配布に間に合うよう準備する。

3-12 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2016年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

全学的なチャペルアワーへの出席を促す。キリスト教に基づく建学の精神を理解できる機会として関心を持ち、参加しようと思える雰囲気を作ることを目指す。クラークホールの宗教的環境の素晴らしさを折々に伝える。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、委員の役割についても周知し、それぞれの役割を遂行するよう促していく。また、ポートフォリオのチャペルアワーシートの活用や、他教員の協力を得て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員会の活動は昨年と同様、年間4回の委員会を開催する。さらに、いずみ祭への展示発表参加、クリスマスツリー点火祭の企画運営など学生主体の活動になるよう支援する。

学生聖歌隊の活動が安定的に継続していくことをめざし、参加への呼びかけを年間通して行う。I. C. F. の参加を促すためにキリスト教推薦入学生など対象者への呼びかけを積極的に行い活動の充実を図る。

いずれの活動も神様の恵みのもとに、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教主義学校として、地域貢献を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 教授

- 【研究課題】 ・ 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究
・ 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について

- 【教育課題】 ・ 造形表現等の教材研究

- 【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

伊 藤 忠 彦 特任教授

- 【研究課題】 ・ 「ジョン・ウエスレーとメソジスト教会」
・ 「使徒言行録に記されたパウロの伝道」
- 【教育課題】 ・ 「学生が、チャペルとキリスト教関連の授業を通じて、保育、教育、福祉を必要とする人々の力になる者に成長することが課題である」
- 【学会参加予定】 ・ キリスト教社会福祉学会・日本キリスト教学会の会員であるが、参加予定はない。
- 【社会的活動】 ・ 社会福祉法人 白十字会林間学校理事長
・ 社会福祉法人 基督教児童福祉会理事
・ 社会福祉法人 さがみ愛育会理事
・ 社会福祉法人 悠朋会理事

武 石 宣 子 特任教授

- 【研究課題】 ・ リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏を含む)に関する研究
・ 音楽療法（乳幼児及び高齢者）に関する研究
・ プラスティック・アニメの研究
・ 身体表現を通じた音楽理解への可能性
・ 保育の表現技術について
・ カリキュラム研究《リトミック、器楽（ML・ピアノ）、保育内容（表現）》
・ MLの教材研究
・ 子どもの歌の簡易伴奏法の研究（グレード別アレンジ法）
- 【教育課題】 ・ リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
・ 器楽(ML・ピアノ)の授業《ML：子どもの歌、鍵盤楽器による基礎技能》
・ 親子リトミック（親子ふれあい遊び）の指導方法の充実
・ 教育法：《ダルクローズ・リトミック》
- 【所属学会等】
○大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
○日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
○日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会

- 初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
- 全日本ピアノ指導者協会 ○アクティビティ・サービス協議会
- 幼児音楽研究会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」(その3) 継続研究
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究 (～2015 年まで)
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究 (～随時継続)
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究 (～2012 年まで)
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題 (～2015)、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)

上記テーマに基づき、協力園(幼稚園・保育園)での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与する学生、保護者(親子)との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・ 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに関連させるプログラムの開発と工夫に努力する。
- ・ 「キリスト教保育」、「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際のデータ(事例・ビデオ)を学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP(世界幼児教育機構)日本委員会 国際共同研究
- ・ 幼児保育実践研究会
- ・ キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
- ・ キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・副委員長
- ・ 保育教諭養成課程研究会(文科省重点課程研究)
- ・ 全国保育士養成協議会(平成29年度第56回大会)実行委員

【地域貢献】

- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導

- ・相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
- ・保育所指定管理者選定・および第三者評価委員(東京・荒川区、座間市)

【その他委員会等】

- ・教務委員会の部長として、これまでの歴史を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014年度導入した1.2年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
- ・教務委員会の下部委員会として、キャリアデザインセンター委員会・キャリアファイル運営委員会・学生FD委員会・子育て支援プログラム運営委員会・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またラーニングセンター開設に伴い組織的有機的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。
- ・「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、キャリアファイル運営委員を基にキャリアファイル等の教材開発・更新、あるいは今後の委員会運営と改善を執り行う。
- ・キャリアデザインセンター(CDC)の有効活用とプログラム、及び地域貢献(連携)の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
- ・キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神(アドミッションポリシー)に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、キリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業においてのカリキュラム内容を工夫することに努める。

櫻井奈津子 教授

【研究課題】 ・家庭養護推進の課題

「養育里親」「小規模住居型児童養育事業」を対象とした支援活動において、児童相談所、児童福祉施設、里親支援機関での支援活動に協力し、里親支援に携わるワーカーの養成についての研究活動を行う。

養子縁組あっせんの状況調査をもとに、子どもの福祉のための養子縁組制度活用について研究を行う。

里親支援活動への協力を通して、里親のニーズを探る。

・要保護児童への自立支援

NP0神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業への参加・協力を通し、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、社会的養護の元で育つ子どもたちへの自立支援への研究を行う。

【教育課題】 ・担当科目(社会的養護の原理・社会的養護の内容・児童家庭福祉・子どもと暮らし)の内容充実。

全体として、具体的に理解しやすい教材（パワーポイント、ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題提供により、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題についての理解を促してゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中で援助を行う保育者に必要な知識・技術を学び、子どもにとってより望ましいケアのあり方について、グループでの作業（ディスカッション・課題解決型のワーク等）を通して理解していく。保育実習Ⅰ（施設）への事前学習と連動させ授業を展開する。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、児童家庭福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していけるよう働きかけてゆく。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。開講時期が後期なので、クリスマス・正月を意識して教材を提供する。選択科目であるため、履修者の状況・希望により柔軟性を持たせたい。近隣施設への見学も取り入れていく。

・実習指導の充実。

実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに単位修得が困難な学生への個別対応を丁寧に行う。

・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】

- ・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業平成27年度里親認定前研修 講師、相模原市養育里親更新研修 講師 等）

- ・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。
- ・相模原市における児童福祉活動・子どもの権利擁護への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会等の委員会活動・養育里親更新研修講師・相模原市子どもの権利条例に基づく子どもの権利救済委員活動等）
子どもの権利相談室等への協力）
- ・横浜市における児童福祉活動への協力（横浜市児童福祉審議会委員）

・東京都八王子児童相談所里親委託等推進委員会委員

・第三者委員活動

社会福祉法人あすはの会

社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会グリーンヒル相模原（母子生活支援施設）

【参加予定学会】 日本子ども家庭福祉学会（日本社会事業大学）・日本社会福祉学会（佛教大学）

日本子ども虐待防止学会（大阪）・日本児童養護実践学会・日本フォスターケア研究会

鈴木 敏彦 教授

【研究課題】 ・戦前期・経済保護事業に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）

・福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（障害分野を中心に）

・障害者相談支援及びソーシャルワークに関する研究

【教育課題】 ・短期大学における入学前教育・卒後教育のあり方について

・短期大学における退学防止に関する方策について

・児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、

日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、社会保障法学会、日本高齢者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳子 教授

【研究課題】

① 継続の研究課題である、「乳幼児の“あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」について、執筆したテキストブックの内容を実証する視点にたち、保護者支援と学生支援に向けた啓蒙活動をおこなう。

② 文科省が提示した「幼児期運動指針」の浸透状況の把握と、その具体。

（ア） 協力団体（予定）：冒険遊び場・保育所・幼稚園等

③ 冒険遊び場、幼少年体育指導士の養成プログラムの試案作成

【教育課題】

① 保育内容『健康』：ア、1年生の履修科目である点を鑑み、特に前期履修学生に対しては興味喚起のためトピックスを多く提示し、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促す。イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。場合によっては前期の到達目標をスリム化する。ウ、各回の授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる。エ、本学学生の理解促進のための伝達力を磨く。オ、ポートフォリオの健康チェック欄と連動を図る。

② 乳幼児体育：ア、「ヒトが育ち、生きていくために、何故乳幼児期の“運動”が必要不可欠である」ことを授業の基盤とする。イ、我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそび

の指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる視点で授業をおこなう。ウ、授業構成の前半は乳児対象・中盤以降は幼児対象とし、仕上げには、部分指導案や簡単な年間プログラム作成もおこなう。エ、日本発育発達学会が設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の内容や、文部科学省が作成した幼児期運動指針も取り入れながら、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める。

- ③ 保育・教育実践演習：担当4年目となる中、5名の授業担当者のメンバーの特徴が生かせるように随時授業調整を実施しながら授業を展開する。引き続き、社会人として保育者として巣立っていく学生に対し、多面的な仕上げるサポートをおこなう。
- ④ 実習指導・グループ担任：生活全般や現場実習に対して強い不安感や困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の気持ちを汲み取る努力をする。自身の重要課題として、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身のストレスを上手くコントロールする術の習得し、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援をしたい。心身ともに充実した生活を営める大人になるようなサポートに努めたい。

【主な社会活動】

- ・「日本体育学会」平成27・28年度代議員（専門領域選出） *専門領域は、「発育発達」領域
- ・「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・「神奈川県相模原市男女協同参画課諮問委員会」会長
- ・「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
- ・「神奈川県相模原市中央区区民会議」議長
- ・「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・「社会福祉法人 歩育の会」 理事
- ・「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事

【参加学会（予定）】

- ・ 日本保育学会（5月）
- ・ 日本小児保健学会（6月）
- ・ 日本体育学会（9月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・ 日本発育発達学会（3月）

平 田 美智子 教授

- 【研究課題】 ・養子縁組を含む里親支援（里親支援専門相談員の研修）に関する調査研究（「養子と里親を考える会」のメンバーで日本財団の助成事業）
- ・地域子育て支援拠点事業の研究（NPO法人等との共同研究）
- ・母子生活支援施設の調査研究（個人研究）
- ・アジアにおける児童労働・女子教育・子どもの貧困（社会福祉専門職協議会国際委員会社会福祉振興・試験センターの助成事業）
- 【教育課題】 ・キャリアデザイン教育の推進
- ・アクティブ・ラーニングを使った授業運営

- ・学生のボランティア活動支援(北里大学との「はっぴいアクアリウムプロジェクト」)
- 【学会参加予定】・ I F S W (国際ソーシャルワーカー連盟) 世界会議・総会 (6月25日~7月1日、韓国、ソウル市) (発表予定)
- ・アジアのソーシャルワーカー対象の研修事業 (8月、インドで開催、社会福祉振興・試験センター助成事業、発表予定)
- ・日本保育学会 (5月7/8日、東京学芸大学) (自主シンポ発表)
- ・日本社会福祉学会 (9月10/11日、近畿大学) (発表予定)
- 【地域貢献】・相模原市と協働で児童虐待防止オレンジリボン運動 (11月) 推進 (学生と)
- ・相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流 (松が丘園とパン販売)
- ・相模原中央支援学校と学生の交流事業 (7月、ふれあい事業にボランティアサークルが参加)
- ・相模原市・神奈川県中央児童相談所の里親支援 (学生の保育ボランティア)
- ・北里大学・さがまちコンソーシアムと共催で、「はっぴいアクアリウムプロジェクト」開催
- 【社会的活動】・国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) アジア太平洋地域 役員 (会計)
- ・横浜市地域子育て支援拠点 (NPO 法人グリーンママ) 理事・専門相談員
- ・「養子と里親を考える会」(研究会) 理事
- ・座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員 (学識経験者)
- ・大和市総合政策審議会委員
- ・母子生活支援施設さくら荘第三者委員
- ・さくらの森保育園第三者委員
- ・東京都養育里親研修講師
- ・(社福) 相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター研修講師
- ・(社福) 相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター意見交換会委員

大 下 聖 治 教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究
- ④ 身体運動遊びと安全対策に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
- ② NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進
- ③ 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員
苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

片 山 知 子 教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ①キリスト教保育の今日的課題と展望
- ②保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
- ③キリスト教保育の理念と保育実践の検証
- ④女性宣教師による地方のキリスト教保育の持続性について研究

2) 持続可能な発展 (ESD) の幼児教育

文科省科研費による共同研究に参加

「日本における乳幼児期の ESD ―地域で育つ・地域を創る保育・教育モデルの検討―」

3) 子育て支援のあり方

- ①和泉短期大学での子育て支援を通してその意義を検証する
- ②地域における子育て支援に関わる (その内容と方法等の検証も含めて)

1)－①継続して行う

1)－② 2016 年 3 月和泉短期大学紀要にて発表。引き続き継続する

1)－③一般社団法人キリスト教保育連盟の活動に参加し引き続き継続する。

④長野上田市梅花幼稚園保育の歴史的価値への検証

2)継続して保育学会、日本乳幼児教育学会等での発表を積み重ね、調査活動とともにまとめと報告の作業に着手

3)－① 2016 年 3 月和泉短期大学紀要にて和泉短期大学子育て支援に関する共同研究発表。引き続き継続

3)－②相模原市における子ども子育て会議に副会長として参加し継続する。

【教育課題】 1) 担当各教科の学生の実態に即した指導内容、方法の工夫と充実

- 2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら保育福祉の専門職への学びができるよう援助する

3) CDC および学内施設を有効に活用し専門職教育の充実を図る

4) 学生のキリスト教活動への関心をはかる

【学会参加予定】 日本保育学会

(5月学芸大学開催：研究論文ポスター発表、自主シンポジウム開催で参加)

OMEF 日本委員会総会

(OMEF 日本委員会個人会員および団体会員理事)

日本乳幼児教育学会

一般社団法人キリスト教保育連盟 夏期講習会

(7月長野軽井沢開催、理事長として参加)

【地域貢献】 相模原市子ども・子育て会議副会長

一般社団法人キリスト教保育連盟理事長

キリスト教保育連盟神奈川部会代議員、他各部会加盟園での研修講師協力

横浜市幼稚園協会加盟園での研修協力

西 田 恵一郎 准教授・チャプレン

【研究活動】

- ・「相互愛 — 奥村一郎神父の後を追いつつ — 」
- ・「人間の学としての神学を求めて」
- ・「いかにして学生が保育・教育・福祉に於ける召命への使命感を知るか」

【教育課題】

- ・礼拝および授業が自分と向き合う時となり、自己を発見しながら神との出会いに繋がるように。
更に保育・教育・福祉の仕事は神からの委託であると気づくことができるように。
- ・宗教活動を含むすべての活動を通して愛し愛される「人」となるように。
- ・相談業務を通して学生の学びを支援する。
- ・千利休の言葉に「伝わるはよし 伝えむとするはわろし」とある。学びが自身の血肉となり、そして、自身の言葉が人を生かす力となる。そのような学びを目指す。

【参加予定学会等】

- ・“The webinar series”：自身の所属学会である“The American Association for Pastoral Counselors”（アメリカ牧会カウンセラー協会）などの団体によって定期的に配信されるインターネット・セミナー
- ・“The American Association for Pastoral Counselors” あるいは “The National Christian Counseling Association” の年次総会
- ・日本臨床死生学会
- ・日本スピリチュアルケア学会

【地域貢献】

- ・実習先の幼稚園・保育園・施設などの訪問
- ・日本基督教団相模原協会協力牧師

【その他委員会等】

- ・宗教部の活動への協力・支援

- 【研究課題】 ・和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表現の課題について、学生支援ユニット実施する学生へのアンケート（2014年度～2016年度）結果から傾向を調査、保育現場が学生に求める音楽的能力を探る。
- ・自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
- ・子どもの表現を育むため「保育者研修」について
園内研修内容を省察し、子どもとの生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための 保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る
- ・「保育の中での音楽に関わる授業研究」
学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の概念を学ぶかを探る
- 【教育課題】 ・「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習
課題のより密接で効果的な展開を探る。C D Cでの発表による学習効果が得られているので、更にL Cなどの積極的活用による多角的な学習を模索したい。
- ・保育内容「表現」の授業内容と方法について
非常勤担当教員との協力により、毎年度の省察・当学年の学生の傾向に基づいた、教材研究・授業形態などの細かい工夫を積み重ねて、子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する充実した授業実践の手応えを得ている。
2016年度は時間割の変更により利用教室・教材ワゴンなどの使用状況の改善が見込まれるので、更に課題設定・指導方法の改善を試みる。
- ・「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
2015年度末現在16名の隊員を得られた。宗教部と連携した運営により、1年を通して充実した活動となり、クリスマス関連行事を含め、学生の参加率も高く、大きな手応えを得られた。参加学生は積極的・主体的に活動を楽しみ、夏休み・11月の集中練習も活発に行われた。一方で、多くの水曜昼休みに各種委員会・学生向け説明会など開催される為、全員揃っての練習は不可能であり、練習方法や隊員への連絡手段・隊員同士の親睦などに工夫を要した。
昨年度の反省に基づく働き掛け・宗教委員会の協力等により、今年度クリスマス以降に2名の新1年生隊員を得られた。
しかし、学事日程により1月以降の1年生の新入会・卒業入学行事に向けての練習が困難である。引き続き、準備・働きかけの工夫改善を要する。
- ・グループ運営の充実と 個別学生指導について
(2年生) 実習・進路相談について、相談可能な日時を予め提示し連絡しやすい環境を整えることで、実習・ボランティア業務によるグループ指導時間の減少をカバーするように努め、一定の効果を得られた。しかし自分で課題・状況を認識することが難しい学生との関わりについては、更に工夫を要する。

(1年生)入学後、学生生活が安定するまでの期間に厚いサポートを要する学生が増えている。信頼関係を作り学習態度を養成する指導を模索中である。

実習指導については、共通教材・カルテファイル・Lグループ用補助教材(プリント・学習段階の設定)を活用、面談やメールでの働き掛けによる学生との協同関係の構築を目指し一定の効果を得られた。引き続き改善を重ねる

【学会参加予定】 日本保育学会(5月) 日本乳幼児教育学会(11月) 日本音楽教育学会(11月)

横 川 剛 毅 准教授

【研究課題】 ・障がいのある人とキリスト教社会福祉

【教育課題】 ・より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
・障がいに関する正しい知識をもち、実践できる保育者・支援者の育成

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

矢 野 由佳子 准教授

【研究課題】 ・保育者のメンタルヘルスに関する調査研究

・乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査

【教育課題】 ・子どもや保護者の心理に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成

・心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】 日本保育学会 日本心理臨床学会 他

相 馬 靖 明 准教授

【研究課題】

「保育者の成長契機の研究」

「初任期の経験」

幼稚園・保育所・認定こども園保育者への聞き取り調査を行い、学び続ける保育者の特性と初任期における経験との関連を探る。

「初任者へのメンター経験」

経験3～5年程度の保育者による初任保育者へのメンタリング場面(実践についての語り合い・実践記録やドキュメンテーション作成についてのサポートなど)について、園内研修の場での聞き取り・観察を行い、メンター支援のあり方を探る。

【教育課題】

「言語表現」「幼児教育と情報機器」「保育・教職実践演習」

全て2年次配当科目であり、前期は教育実習・保育実習Ⅱに向けた、後期は就業へ向けた実践力(意図を持って取り組み、それを表現する力)につながる授業を展開する。

「キャリアデザインセンター・ラーニングセンター・ポートフォリオ」

自学自修とそのサポート体制の充実に向けて、GoogleClassroomを活用した授業実践を開発する。

【参加予定学会】

1. 日本発達心理学会(2015年4月)

2. 日本保育学会（2015年5月）
3. 全国保育士養成協議会研究大会（2015年9月）
4. 日本教育工学会（2015年9月）
5. 日本乳幼児教育学会（2015年11月）

【社会活動】

1. 子どもと保育総合研究所（研究大会・セミナーの企画運営）
2. 公益財団法人鉄道弘済会（こうさいセミナー）
3. 神奈川県私立幼稚園連合会（特別研究B部会・全国私立幼稚園連合会関東ブロック教員研修大会フォーラム・男性保育者勉強会）
4. 開成町立開成幼稚園（園内研修・公開保育）
5. 江東区立元加賀幼稚園（園内研修）
6. 中央区立有馬幼稚園（園内研修）

佐久間 志保子 准教授

【研究活動】

- ・医療的ケアに対する介護職員の意識調査
- ・保育所における感染症の実態と課題
- ・災害に関する小規模高齢者・障害者施設の取組み

【学会参加予定】

- ・日本在宅ケア学会
- ・日本社会福祉学会
- ・日本介護福祉教育学会
- ・日本環境感染学会
- ・日本認知症ケア学会

松 山 洋 平 准教授

【研究課題】

- ・「幼保一体化施設における子どもの育ちを支える保育の質と構造に関する研究」
- ・「保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方」
- ・「保育者養成校による保護者主体の支え合いの仕組み作りに関する研究」
- ・「保育者の子どもを理解することの深化についての研究」

【教育課題】

- ・担当科目「保育・教職実践演習」「保育方法」「保育内容人間関係」「保育課程論」において教材研究をすすめ、学生の実態を捉えたの授業展開を図る。
特に「保育課程論」「保育方法」と実習指導授業との関連性を一層高める。
- ・各実習指導などと連動した、グループ担任としての職務内容を理解し、学生理解に努める。
- ・サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組みを行う。

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会
- ・全国保育士養成協議会研究大会

【社会的活動】

- ・子どもと保育総合研究所 所員（研究大会・セミナーなどの企画運営）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木登戸園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木鷺沼園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木梶ヶ谷園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・田園調布学園大学みらいこども園 園内研究会講師
- ・卒業生研究会
- ・幼稚園教諭免許状更新講習講師（神奈川県幼稚園協会）

河 合 高 鋭 専任講師

【研究課題】

- ①インクルーシブ教育・保育についての研究
- ②障がい乳幼児に関する保護者支援に関する研究

【教育課題】

- ・担当科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」「保育原理」の授業研究
- ・実習ボランティアセンター、実習授業との連携
- ・実習において学生個々が理解を深め、一層の授業の充実と工夫を図る
- ・「障がい児保育Ⅱ」「保育課程論」授業内容の改善
- ・担当グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援
- ・実習指導において保育者としての大切な心的態度やマナーについて

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本人間関係学会
- ・日本 LD 学会
- ・日本特殊教育学会
- ・自閉症スペクトラム学会

【社会的活動】

- ・光が丘地区まちづくり会議委員会 委員
- ・東京都葛飾区私立幼稚園連合会 葛飾区私立幼稚園教育実践研究会 研修講師
- ・社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 自閉症カンファレンス日本 サポートスタッフ
- ・日本人間関係学会 支援活動委員 委員長

久保 小枝子 専任講師

【研究課題】

- ・子ども理解と保育者の援助を幼稚園の事例から考察し、研究する。
- ・キリスト教保育の3.4.5歳児のためのカリキュラムを研究する。
- ・「子どもの祈り」を幼児期の発達課題と合わせて検証し、研究する。
- ・「子どもに多い事故や怪我の対応について」ガイドラインと現場対応の方法を小児救急法専門のMFA（メディック・ファーストエイド）インストラクター熊澤一美氏と共同研究し、まとめる。

【教育課題】

- ・一人ひとりの学生が保育への学びの意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
- ・「保育内容 環境」「保育内容 人間関係」「保育内容 言葉」「保育方法」「キリスト教保育」の講義を充実させるために幼稚園・保育園の事例研究、教材研究を通し、保育観の構築を行う。また、保育現場での資料集め、見学、インタビューを中心に行い、理論と実践の統合を目指す講義の実践を図る。

【学会等の参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本キリスト教教育学会
- ・幼児保育実践研究会
- ・キリスト教保育連盟 夏期講習会
- ・OMEP（世界幼児教育・保育機構）日本委員会

【社会的活動】

- ・キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会（3.4.5 歳児カリキュラム作成）
- ・キリスト教保育連盟 月刊雑誌『キリスト教保育』3.4.5 歳児「心にとめて」執筆

八 代 陽 子 専任講師

【研究課題】

- ・保育者の成長にかかわる人間関係の研究
「保育者の悩みの変化のプロセス」と、「保育者を取り巻く人間関係」に焦点を当て、保育者の記録とインタビューを縦断的に行い、保育者の成長と人間関係の関連を探る。
- ・障がいを持つ子どもの人間関係に関する研究
障がいを持つ子どもの人間関係に視点を当て、子ども一人ひとりの世界の広がり、そこにかかわる保育者の配慮の関連を探る。

【教育課題】

- ・学生の主体的な学びを高めるための授業研究
「子どもの保健Ⅰ」では、今年度は、モデルシラバスを参考に授業をすすめ、学生の実態を把握し、理解を深める。その上で、主体的な学びを高めるための課題を出し、授業内容の改善を目指す。
「子どもの保健Ⅱ」では、アクティブラーニング型授業として、グループでの健康教育発表を取り入れる。学生へのアンケート調査を行うこと等により、「学習者の主体的学び」と「授業プロセス」を検討し、さらなる改善を目指す。
- ・学生理解と、アドバイザーとしての役割理解を深める
コミュニケーションカードや関わりを通して、学生の理解を深める。その上で、各実習指導などと連動したアドバイザーの役割について理解を深める。

【所属学会等】

2008 年 11 月 日本医療保育学会
2011 年 4 月 日本保育学会
2012 年 7 月 日本乳幼児教育学会

2012 年 9 月 日本発達心理学会

2013 年 8 月 日本特殊教育学会

佐 藤 美 紀 専任講師

- 【研究活動】 ・ 傾聴ボランティアにおける認知症高齢者との関わりの課題
・ 高齢者福祉施設における移動・移乗研修に関する調査
- 【学会参加予定】 ・ 日本介護福祉学会
・ 認知症ケア学会

山 本 正 司 専任講師

- 【研究活動】
- (1) 社会福祉本質論争が現在に残した課題 ―政策論の視点から―
(2) 厚生（福祉）と経済学の理論―その 2―
―ビグー，ボランニーおよびハイエクが提起したこと―
- 【社会的活動】
- 民生委員・児童委員（横浜市港北区綱島西地区）任期 2013 年 12 月～2016 年 11 月
- 【学会参加予定】
- (1) 社会政策学会(秋季大会)
(2) 日本社会保障法学会(春季大会)
(3) 社会事業史学会

久保田 美沙子 助教

- 【担当科目】
- 社会的養護の内容
保育実習指導Ⅰ
保育実習指導Ⅱ
教育実習指導
- 【専門分野及び関連分野】
- 保育学 児童福祉学
- 【所属学会】
- 日本子ども虐待防止学会 日本子ども家庭福祉学会 日本保育学会
- 【教育課題】
- 実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容の整理・充実と学生支援
実習指導授業内容の充実
担当科目教員として学生に保育士の専門性を深める授業を展開する
- 【研究課題】
- （長期）社会的養護における家庭復帰に関する研究
（短期）社会的養護における母子関係を再構築するための支援に関する研究
- 【社会的活動】
- 2012/05～現在に至る 相模原福祉オンブズマンネットワーク オンブズマン
- 【研究業績】

1. 【論文】『母子生活支援施設における子どもへの支援
～一対一の関わりからの子どもの変化～』（単独）2009/03
2. 【論文】『母子生活支援施設における DV 被害児の理解と支援
～母子生活支援施設職員への調査から～』（単独）2011/03
3. 【論文】『DV 被害を受けた学童期の子どもの特徴緩和に関する研究
－母子生活支援施設における支援から』（単独）2014/03
4. 【論文】『家庭的な養育環境を実現させるための取組に関する一考察
－母子生活支援施設における支援から』（単独）2015/03

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2016年度は下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①学修時間の促進と強化に伴う学修環境の整備と組織的運営の構造整備・改革
（時間割構成 5 時限化への変更に伴う学修促進と運営）
- ②教育内容の体系化の充実（3 ポリシー整備に伴う教育理念の再検討・シラバス変更）
- ③新たな教育方法の導入にむけた検討
（アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL）等、
授業担当者に対する促進 Google Class への転換と活用
ラーニングセンターWILL の運営管理）
- ④実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討（「実習・ボランティアセンター委員会」との協働）
- ⑤ハード面における環境整備の提案
（教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学修室（カフェ）化
- ⑥障がいその他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討
（「障がい学生修学支援委員会」との協働）2015 年度生対象者なし、2016 年度生調査必要
- ⑦CDC、LC “Will”、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認
（特に Google Class への転換とスムーズな運営のための人材確保）

（2）学びの組織的支援

- ①ポートフォリオの充実（「ポートフォリオ委員会」との協働）
- ②初年次教育のあり方の検討
（短期大学における初年次教育、保育者養成校における初年次教育）
- ③中途退学防止に向けた取組みの充実（「離学者検討委員会」との協働）
- ④キャリアデザインセンター支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関する検討
（「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ⑤入学前教育の充実（方法・内容等の再検討）
- ⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映
- ⑦学びの組織的支援充実のための構造整備（教務委員会下部組織の整備と確認）

（3）学修の評価

- ①アセスメントポリシー策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討
- ③GPA 制度の活用に向けた検討
（実習実施条件、及び表彰条件等への活用 実習ボランティアセンターと協働）

- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

- ①学校間連携の充実（保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等）
- ②高大連携プログラムの充実（聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等）
- ③産官学連携のあり方の検討（日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、相模原市高齢者施設協議会 等）
- ④地域連携のあり方の検討
- ⑤専門職団体等との連携の充実（キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等）
- ⑥保証人との連携の充実（保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携）

(5) 生涯教育

- ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進（リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣等）IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
- ②大学公開講座の充実（相模原市との共催 等）

(6) キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ②資格取得支援（保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他）

(7) FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教員参加の FD 研修会開催（「ファカルティディベロップメント委員会」との協働）
- ⑤学生 FD 委員会活動への支援

(8) 教員の交流と研究活動の支援

- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
- ②教員の研究活動の推進（研究費の活用、外部研究資金調達への支援 等）
- ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討

(9) 情報公開・情報収集の推進

- ①自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）
- ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）
- ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）

学生委員会（学生部長 大下 聖治）

- （１）キャリアデザインⅠ（学生生活支援）・キャリアデザインⅡ（進路支援）の充実を図る。
- （２）進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- （３）学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- （４）学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- （５）学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- （６）学友会活動（いずみ祭・新入生歓迎大会・卒業パーティー委員会等）を支援する。
- （７）学生の課外活動を支援する。
- （８）健康管理センターを充実させる。

図書委員会（図書館長 櫻井 奈津子）

- １．研究紀要発行に関する検討
 - ①査読付き研究紀要導入の検討
 - ②研究紀要の電子化の検討
- ２．特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
- ３．蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
- ４．図書館利用者サービスの向上
 - ①業務用パソコンの安定稼働と迅速なデータ処理
 - ②ＡＶルーム・共同研究室の充実
- ５．図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ②図書未返却者への督促強化
- ６．図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
- ７．図書館サポーター活動の充実
 - ①選書ツアー
 - ②ＰＯＰ製作・展示
- ８．図書館主宰イベントの実施
 - ①折り紙コンテスト
 - ②クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
- ９．図書館ホームページの拡充
- １０．ラーニングセンターwillとの連携
 - ①ラーニングセンターwillでの自学に必要な資料貸出に関する手続きの簡略化
 - ②授業課題等の情報に基づく資料提供
 - ③学習支援者の活動に必要な資料収集

入試広報委員会（入試広報部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係

- ①学園報（izumi NEWS）の発行
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）、オープンキャンパスの開催及び充実のための検討
- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑥公開授業（WEEKDAY CAMPUS VISIT）の開催及び充実のための検討
- ⑦和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑧広報戦略の検討
- ⑨教職員説明会の開催
- ⑩同窓会との交流
- ⑪その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①各入試（iA0 入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③各大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習・ボランティアセンター委員会（実習・ボランティアセンター長 山本 美貴子）

1. 実習に関する支援

(1) 実習施設の選定・連絡・調整

- ①実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ②実習連絡会の実施（実習種別年 3 回）
- ③センター便り発行を廃止し、「実習指導ミニマムスタンダード(実習実施要項)」の作成と実習先への送付（年 1 回）

(2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案

- ① 授業実施計画の立案
- ②実習直前診断テスト・面談の企画、実施
- ③実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- ④1, 2 年生の共同授業企画実施

(3) 実習実施に関わる業務

- ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）期間変更に関わる交渉と実習先確保
- ②上記①の実施機関の一本化への努力(1 月期：保育所、2 月期：施設)
- ③ 実習登録の受付と配属
- ④ 諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
- ⑤ 実習巡回指導にかかわる連絡・調整。(巡回担当教員の配属、調整等)

⑥麻疹、細菌検査等、陰性、陽性反応に対する実習実施規定の見直しと告知

(4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管

①「実習の指導手引き」の作成、編集、配布

②実習記録（日誌）の作成、配布

③実習関連資料の収集と学生への提供

(5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理

(6) インフルエンザ予防接種の実施

(7) 必要に応じた学生への個別支援（家族支援要請）

(8) その他の実習に関わる支援として、アドバイザーと連携し、特に支援の必要な学生とその家族の相談業務を随時実施。

2. ボランティア活動への支援

(1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供

(2) 活動先との連絡・調整

(3) 活動状況の把握

(4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供

(5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布

(6) その他のボランティア活動に関わる支援

3. 2015年度の重点課題

(1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援

①入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。

②学生相談室・保健室との連携を重点課題とし、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。

(2) キャリアデザインセンターの活用（特別教室・キャリアファイルシステムの教材取り組み促進）を図る。

(3) 実習管理システムの改善（施設データベースの改善）に向けた取り組みを行う。

(4) 2014年度生からの実習実施時期の変更に向け、実施時期のグループ配属の検討・カリキュラムの準備を進める。

(5) 2015年度は、上記（4）の理由より、センターの業務に留まらず、入学希望者増員のため教員一人当たりの学生数の増加により、指導者（アドバイザー）の巡回業務も煩雑になると推測され、これらに関わる書類のさらなる簡素化を目指す。

(6) グループアドバイザーによる実習指導体制の長所（専任教員の個性・特徴・各々の教授法）を生かしつつ、実習指導上の「ミニマムスタンダード」を保持するために「指導手引きの充実」と「実習直前診断テスト・面談」による指導の充実を図る。

(7) 保育実習の技術上の実質的な科目としての「保育課程論」の指導担当者と連携し、指導内容のコンセンサスを一層高める。

- (8) 2014 年度末に「和泉短期大学実習指導要綱」を現場での実習指導のミニマムディマンドとして位置付け、作成した。これらの精度や内容を高めるために、保育現場との一層の連携を図る。
- (9) 保育実習指導の専門性を高めるため「指導者用手引き」の内容の精査に一層努め、特にグループ・共同・合同・(1.2 年生の)共同授業の運営の独自性を生かした内容の構成に務める。

子育て支援プログラム運営委員会（委員長 片山 知子）

I. はじめに

子育て支援プログラム運営委員会の活動計画は前年の活動を振り返り、更なる充実と与えられた課題を検討して毎年作成されている。委員会の活動である子育てひろば「はっぴい」は開催場所を学内のキャリアデザインセンター(CDC)を活用することになり6年が経ち、開催月によって差異はあるが、地域からの周知と一定数の参加を得ることができている。

2016年度は行政・自治体の「こども・子育て関連3法による保育の新制度」実施2年目になり、本学も地域での子育て支援の一端を担うことがより期待される。相模原市との連携も前年同様の期待がされている。以上の動きをふまえ、2016年度の子育て支援プログラム運営委員会の活動は、地域貢献とともに更に「学生の学びの場」、「保育者養成に連動する視点への気付き」としての意義を持ちながら計画し実施していきたい。

II. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月、土曜日）

1. 子育て家族への支援

- 子どもや保護者が安心できる安全な遊び場と、季節に応じたテーマによる活動や良質の文化、芸術に触れる体験の提供。
- 親子が共に遊びを楽しみ、くつろげる環境を用意する。保育支援者(保育士)によるサポート体制を今年度も同じように継続して行う。
- 学生ボランティア(以下学生)のリーダーを設け、学生が担当教員リーダーと協同して活動を計画する。実際には遊びの見守り(安全への配慮)を行い、楽しい企画(お楽しみプログラム)を提供していく。
- 毎回子育て支援プログラム運営委員会委員のほか、専任教員には年間1回の参加に協力いただく。
- 参加保護者との気軽な会話や、親しみやすい関係を作るなど、教職員から保護者に働きかけることで、子育ての負担や悩みの軽減を図り、必要に応じて教員の専門性を生かした相談活動等の対応や、専門機関の紹介等を行う。

2. 学生へ実践的な学びの場を提供する

- 新入生オリエンテーションでの呼びかけを学生と共に行い、4月中に説明会と準備会を開催し、年間登録制で参加の学生を募る。
- キリスト教に基づく学校として建学の精神を常に意識し、地域の子育て家庭への奉仕の業として本活動を考える。活動の始まりと終わりには神への祈りの時を持つ。キリスト教に初めて接する学生達が多い状況であるが、毎回交代でリーダーを担当する時、用意された祈りの言葉を用いて神に祈る経験を持つ。
- 学生が乳幼児と触れあいながら乳幼児の状況を知る、あるいは実際に関わる中で子どもを学ぶ機会とする。子どもだけではなく保護者との会話を体験し、保育職として不可欠のコミュニケーション力を育む。

- ・学生主体の企画（絵本・紙芝居・パネルシアター・手遊び・スタンツ・演奏など）の発表の機会を作り、学生の学習意欲の向上を図り、実践経験の機会を増やす。
 - ・学生は前日の準備から当日の終了まで環境整備にかかわり、教職員、保育支援者と交流しながら基本的な生活スキルや保育環境としての配慮を実践的に学ぶ機会を得る。
 - ・学生の活動後の支援としてバズセッション等のコミュニケーションの機会を設け、具体的に促進する。
 - ・8月に学生に対して交流と実践的研修を行う。内容は秋の学校農園での芋ほりのための準備の一環として草取り作業のプログラムとする。
3. 高校生への対応
- ・入学前教育プログラムとして、「はっぴい」の活動に高校生が参加する機会を設定する。参加を希望する高校生は12月および1月、2月、3月のプログラムに受け入れる。
4. 卒業生との連携
- ・卒業生が希望する場合は「はっぴい」活動時のボランティアとして積極的に受け入れる。
 - ・卒業生の子育て世代の親子参加を促し、同窓会の広報活動に協力する。
5. 「はっぴい」の周知活動
- ・本学のHPでの紹介の他、タウン誌等の取材に応じ、記事掲載の依頼等、活動内容を広める。
 - ・HPで「はっぴい通信」を実施後に毎月発行（年10回を予定）
 - ・地域の子育て支援関係団体等からの見学の依頼に協力する。
6. 1年間の活動の振り返りと実態調査
- ・参加者の保護者に、実情と要望を探るための聞き取りやアンケートなどを行い、地域貢献の今後の在り方を検証する。
 - ・参加した学生の現状や要望を探るための調査を実施し、今後の学習支援の方向性を探る。
 - ・上記2つの取り組みを基に、「はっぴい」の活動を振り返りつつ、活動報告書、あるいは論文を作成し、紀要に掲載する。

III. CDCの整備及び子育てひろば「すまいいい」（施設開放：毎週木曜日の実施）との連携

1. 木曜日の地域親子へのCDCを遊び場として施設開放する中で学生たちが日常的に、自然に幼児やその保護者に関わり、積極的に関心を寄せる機会となっている。これは学生に対して保育就業力の根底を支える実践になっている。このような自然な関わりを通して、学生が保護者のニーズを直に感じとる機会ともなっていることの意義は大きい。また、配置されている保育支援者は「はっぴい」「すまいいい」両方にかかわっていることで学生、子ども、保護者とのコミュニケーションが良く保たれて、双方の活動での連続性が図られている。今後もCDCの保育環境・教材(玩具・絵本)の質の高さを、保護者が共感し、強い関心を示している状況があることを踏まえ、更に環境の充実に努める。またこの「児童文化」を備える・伝えることの意味を、CDCで学生は体験することにより、学び取っており、その視点での取り組みも継続していく。
2. 継続的な課題として、開設6年を過ぎ、今後も快適な環境の維持と教材の一層の充実が必要である。いまだ実現はできていないが、親子に対しての絵本や玩具の貸し出しの構想を持ち続けた。貸出活動での利用者の拡大、安定的利用を図ることは、本校の地域貢献ともなると考える。
3. 「はっぴい」「すまいいい」いずれも基本的に、保護者からの相談に対してサポート的な姿勢を保ち、必要な情報提供（専門機関の紹介も含む）を行い、子育てのアイデアや季節に応じた話題の提供を行う。

4. 子育て講演会や子育ての当事者である保護者間の交流等を企画し、学生の参加も促して、大人の＜学び＞の場を提供する。
5. 地域の子育て支援力が求められており。それには子育て世代の当事者が子育て支援の担い手になるという循環が期待されている。地域協働事業を行う等、質の高い子育て支援のあり方を提案することも「はっぴい」の役割と考える。

IV. おわりに

2015年度を振り返り、活動計画に挙げながら果たせなかったところを含めて2016年度も継続的に取組みたいと考えている。なお、CDC も改装数年を経て自然消耗がみられることから環境の保持整備を工夫したい。活動の充実とともに教材教具の効率的な保管管理と補充、適切な収納が活動計画の円滑な遂行のために今年度も引き続き検討課題である。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2016年	4月中旬発行予定
・奨学金リーフレット	2016年	4月中旬発行予定
・高校1,2年生向けリーフレット	2016年	4月中旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2016年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2016年	4月下旬発送予定
・izumi NEWS 29号	2016年	5月下旬発行予定
〃 30号	2016年	8月上旬発行予定
〃 31号	2016年	12月上旬発行予定
〃 32号	2017年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2016年	7月上旬発送予定
・ 〃 ②(学園祭)	2016年	9月下旬 〃
・ 〃 ③(クリスマスカード)	2016年	12月上旬 〃

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・高等学校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・和泉プレカレッジ（6月3年生対象・12月1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・オープンキャンパス

1	2016年 4月 23日（土）	13：30～16：00
2	2016年 5月 22日（日）	13：30～16：00
3	2016年 6月 11日（土）	13：30～16：00
4	2016年 7月 9日（土）	10：30～14：00
5	2016年 7月 30日（土）	10：30～14：00
6	2016年 8月 27日（土）	13：30～16：00
7	2016年 9月 17日（土）	13：30～16：00
8	2016年 10月 29日（土）	11：00～14：00
9	2016年 10月 30日（日）	11：00～14：00
10	2016年 11月 5日（土）	10：30～12：00
11	2017年 1月 7日（土）	10：30～12：00
12	2017年 3月 25日（土）	13：30～16：00

（個別相談会）

（個別相談会）

（入試相談会）

（入試相談会）

・ミニオープンキャンパス

1	2016 年 5 月 28 日 (土)	10 : 00～13 : 00
2	2016 年 6 月 18 日 (土)	10 : 00～13 : 00
3	2016 年 8 月 6 日 (土)	10 : 00～13 : 00
4	2016 年 9 月 3 日 (土)	10 : 00～13 : 00
5	2016 年 10 月 8 日 (土)	10 : 00～13 : 00

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」(通年)
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業(随時)
- ・かながわ短大フェア(神奈川県私立短期大学協会)(5月)
- ・進学相談会(会場形式)(随時)
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」(かながわ大学生涯学習推進協議会)(7月・9月)
- ・「ふれあいいきいきフェスタ」(11月)

(4) 公開講座

- ・市民大学(相模原市・座間市と共催)前期・後期2講座
- ・さがまちカレッジ「中学生対象講座」(12月)
- ・WEEKDAY CAMPUS VISIT(授業参加型体験プログラム) 新企画

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2015 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
(株)ビー・プライム	デジタルパンフレット	1 年間
	本学ホームページ公式サイト制作 Facebook	
(株)マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
(株)リクルート	リクナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
	進学事典 (学校選び応援号)	1 2 月
	就職・資格・キャリア号	3 月
キッズコーポレーション(株)	学校ガイド (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
(株)さんぽう	短期大学まるわかり事典	4 月
(株)昭栄広報	進路ノート	4 月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	4 月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4 月
(株)ディスコ	LINE	1 年間
(株)育伸	TRI-ANGLE (インターネット含む)	4 月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4 月
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	〃 元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1 月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月

神奈川中央交通(株)	バス停正式名称保守管理	1 年間
広告社(株)	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	1 年間

2016(平成28)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

(教員関係経費)

金 額

12,852

研 究 費

児 童 福 祉 学 科

単価

教員数

- 教 授
- 特 任 教 授
- 准 教 授
- 専 任 講 師
- 助 教
- 昇任対象者差額

270 ×
270 ×
260 ×
250 ×
50 ×
10 ×

6
2
8
3
1
2

1,620
540
2,080
750
50
20

20

計

5,060

専 攻 科

単価

- 准 教 授
- 専 任 講 師

260 ×
250 ×

1
2

260
500

3

計

760

23名

計

(

5,820)

学長裁量費

- 和泉共同研究費
- 学長裁量費

1,300

計

1,300

合計

7,120

教 材 費 ○ 専任・非常勤教員

3,432

旅 費 交 通 費 ○ 学 会 参 加 1回 @50限度

1人 2回まで

23名

2,300

(施 設)

内 容

設置場所

金 額

101,483

土 地 ○ 土 地(1,536㎡)<第2号基本金>
2015年度から繰り延べ

スクールバス駐車場

2号館隣地

繰 延

①

100,000

計

(

100,000)

建 物 ○ ラーニングセンター 出入り口ドア改修

1号館

取替更新

③

1,483

計

(

1,483)

(設 備)

内 容

個数

設置場所

14,293

教 育 研 究 用

機 器 備 品

- パソコン収納デスク
- ピアノ(アップライト)
- レクチャーキャビネット(教 卓)
- 経管栄養シミュレータールートモデル
- シュレッダー

15
1
13
1
1

212教室
レッスン室
各教室
介護実習室
2号館

取替更新
取替更新
取替更新
新 規
取替更新

⑤
⑤
⑤
⑤
⑥

5,724
556
3,288
463
233

計

(

10,264)

管 理 用 品

機 器 備 品

- 創立60周年記念フラッグサイン
- 給湯器
- 冷蔵ケース
- ウォーマーテーブル
- ガスレンジ・オープン一体型
- 食券券売機

2
1
1
1
1
1

1号館・4号館
学生食堂
学生食堂
学生食堂
学生食堂
学生食堂

新 規
取替更新
取替更新
取替更新
取替更新
取替更新

②
⑥
⑥
⑥
⑥
⑥

817
235
168
357
477
735

計

(

2,789)

図 書 ○ 児童福祉学科 1,200 専攻科 40

1,240

計

(

1,240)

2016(平成28)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	個 数	場 所	金 額
消 耗 品 費	○ 創立60周年記念フラッグサイン	15	外灯取付	新 規 ② 962
	○ デジタルサイネージ(映像表示装置)	3	学生ホール他	新 規 ⑤ 393
	○ 学生用パソコン、プリンター	5	学生ホール	取替更新 ⑤ 606
	○ 学生用パソコン ハイテーブル・チェア	机3、イス18	学生ホール	新 規 ⑤ 911
	○ ホワイトボード付スクリーン(兼間仕切り)	8	学生ホール	新 規 ⑤ 677
	○ 傘立て	21	各教室	新 規 ⑤ 1,033
	○ ワイヤレスマイク、充電器他	13組	各教室	取替更新 ⑤ 1,667
	○ 会議用イス	6	事務局長室	新 規 ⑥ 145
			計 (	6,394)
印 刷 費	○ 創立60周年記念誌(ビジュアル版)	2,000		新 規 ② 634
	○ 創立60周年記念ポストカードセット(3枚)	2,000		新 規 ② 135
	○ 創立60周年記念式典式次第	300		新 規 ② 21
	○ 創立60周年記念寄付金趣意書	12,000		新 規 ② 96
	○ 創立60周年記念案内状他	300		新 規 ② 84
	○ 学生手帳	750		新 規 ⑤ 1,032
			計 (	2,002)
光 熱 水 費	○ 電気			14,868
	○ 水道			1,984
	○ プロパンガス			1,158
			計 (	18,010)
通 信 費	○ インターネット基本料金			488
	○ 保護者宛成績通知、保証人会、学納金			472
	○ 60周年記念式典 案内状、返信ハガキ他	300		新 規 ② 19
	○ 60周年記念 事業基金	100	協力会社	新 規 ② 9
			計 (	988)
維 持 修 繕 費	○ 建物外壁・鉄部塗装、シーリング取替		1号館	修 繕 ③ 39,916
	○ 門扉・街灯等塗装		1.2.3号館	修 繕 ③ 1,912
	○ 廊下巾木改修		2号館	修 繕 ③ 680
	○ 2階ウッドデッキ・ベンチ塗装		4号館	新 規 ③ 401
	○ ロールスクリーン、ドア修繕	教室	1号館	修 繕 ③ 369
	○ 高架水槽修繕		1号館	修 繕 ③ 376
	○ エレベータ耐震対策		4号館	修 繕 ③ 1,125
			計 (	44,779)
支 払 報 酬 手 数 料	○ スクールバス委託運行費	@880.2 × 4台 × 12 M 他		43,032
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬			3,961
	○ 食堂委託管理費			2,469
	○ 管理人業務費			7,578
	○ 業務用システム維持支援費			1,124
	○ 人材派遣(IT 支援、学術情報)	2名		7,128
	○ 創立60周年記念事業 ロゴデザイン料			新 規 ② 886
	○ 特定天井調査(天井耐震構造調査)	ホール等		新 規 ③ 3,781
	○ 学生・教職員安全確認システム	700	初期導入、月額	新 規 ④ 721
	○ 映像機器移設、取付作業費	13	各教室	新 規 ⑤ 1,417
	○ 文書保管料	議書他	文書管理センター	新 規 ⑥ 201
			計 (	72,298)
賃 借 料	○ 教員用ノートパソコン		研究室	取替更新 ⑥ 600
	○ ベーパーレス会議システム	23	教授会	573
	○ 職員用ノートパソコン	25台、サーバー1台	事務局	再リース 49
	○ コピー機、ファックス、防犯カメラ	事務局・2号館		552
	○ 借植木			378
	○ 公用車(軽自動車)リース料		1台	再リース 324
	○ スクールバス駐車場賃料		2号館隣地	2,400
			計 (	4,276)

2016(平成28)年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費		内 容	個 数	場 所	金 額
奨 学 費 (給 付)	○	真鍋記念奨学金			650
	○	児童福祉奨学金	1.2年対象者なし		0
	○	卒業生・在学生家族	8名		400
	○	学修奨励奨学金			1,970
	計 (				3,020)
広 報 宣 伝 費		○ 入学案内書、媒体広告他			22,518
		計 (			22,518)
清 掃 費		○ 日常清掃、定期清掃		全 館	13,981
		計 (			13,981)
保 険 料	○	情報漏えい保険		新 規 ④	176
	○	学生教育研究災害保険・賠償責任			628
	○	企業財産包括・施設賠償			797
	計 (				1,601)
雑 費	○	創立60周年記念式典祝賀会、講演会	200	クラークホール	新 規 ② 439
	○	創立60周年式典記念品	300	式典来賓	新 規 ② 833
	○	創立60周年 講演会菓子	800	教職員・学生他	新 規 ② 265
	○	創立60周年 表彰用 パナー	100	学生・教職員	新 規 ② 270
	○	非常用飲料水 学生・教職員	3,000	非常用 備蓄庫	取替更新 ④ 1,229
	計 (				3,036)

※ 主な事業計画

合 計 178,557

① 土地取得(第2号基本金組み入れ対象資産)	2号館隣接地	①	100,000
② 創立60周年記念式典関連経費		②	5,470
③ 修繕工事等		③	50,043
④ 危機管理		④	2,126
⑤ 学修環境整備		⑤	17,767
⑥ その他新規事業		⑥	3,151

資金収支計算書 (2012年度 ~ 2016年度)

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

2011年度 専攻科に改組					予 算	予 算
科 目		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	686,633	679,471	636,136	624,700	665,150
	手 数 料 収 入	10,881	9,773	11,241	8,490	8,470
	寄 付 金 収 入	3,948	1,275	1,337	500	1,000
	補 助 金 収 入	48,297	60,564	58,750	40,100	40,100
	付 随 事 業 収 入	18,955	22,165	13,315	9,000	7,000
	資 産 売 却 収 入	0	120,000	0	0	0
	事 業 収 入	2,544	2,410	916	3,223	2,559
	雑 収 入	23,525	18,604	1,921	31,489	4,965
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	249,095	230,590	270,520	213,350	213,450
	そ の 他 の 収 入	13,354	295,735	333,582	121,877	149,682
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 269,616	△ 276,921	△ 230,590	△ 242,370	△ 213,040
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,827,567	1,836,611	1,863,486	2,037,843	2,050,000
合 計	2,615,183	3,000,277	2,960,614	2,848,202	2,929,336	
支出の部	人 件 費 支 出	415,923	403,582	375,093	423,027	399,322
	教 育 研 究 経 費 支 出	112,458	121,844	135,894	142,927	171,639
	管 理 経 費 支 出	109,968	103,912	99,875	101,357	110,343
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	97,501	23,221	23,306	101,358	101,483
	設 備 関 係 支 出	5,666	26,612	6,224	23,966	10,891
	資 産 運 用 支 出	52,885	418,288	301,875	70,653	46,528
	そ の 他 の 支 出	20,097	42,592	9,078	12,000	10,576
	予 備 費 支 出	0	0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 35,926	△ 3,260	△ 1,574	△ 3,221	△ 1,787
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,836,611	1,863,486	2,037,843	1,946,135	2,050,341
	合 計	2,615,183	3,000,277	2,987,614	2,848,202	2,929,336
資 金 収 支 差 額		9,044	26,875	174,357	△ 91,708	341
短期大学学生数		553名	546名	533名	507名	545名
専 門 学 校 (専攻科)学生数		21名	19名	23名	20名	20名
前年度対比学生数		△15名	△9名	△ 9名	△13名	38名増